平成２３年度工学部社会連携推進室活動報告

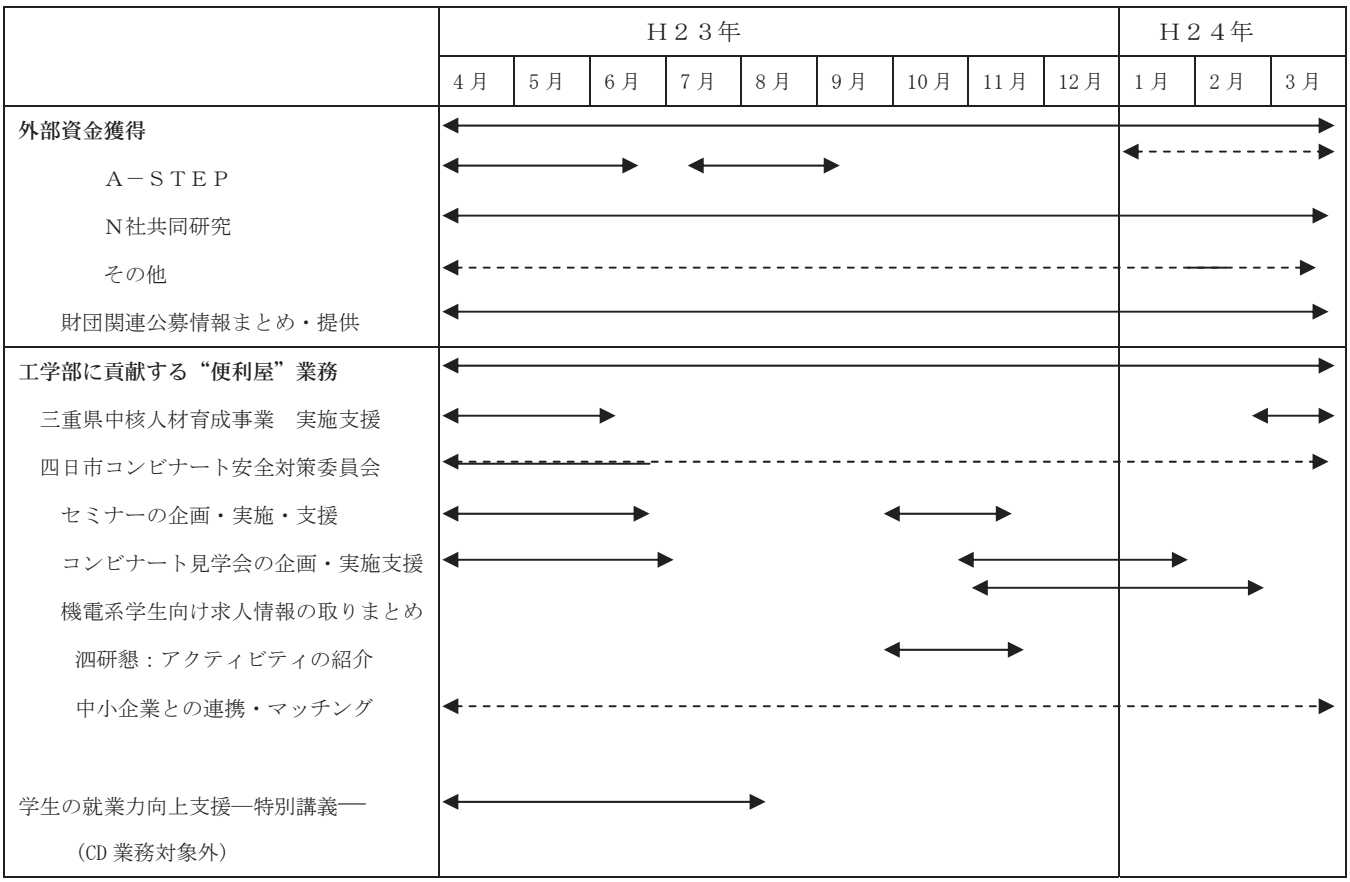
工学部社会連携推進室 産学連携コーディネーター
横森　万

１　実施業務概要

工学研究科長から工学部社会連携推進室に頂いているテーマは、工学部の小型外部資金(数百万円以下)獲得に関する企画・実施業務と工学部運営に貢献する各種の企画・折衝・調整業務の二つに大別される。

これを受け、業務繁多な研究科長の手を可能な限り煩わさず、テーマを自己解釈し、自主的に活動し、投入経営資源を上回る成果を工学部に還元することを目的に活動を推進している。以下に、活動概要を記す。

社会連携推進室　Ｈ２３年度年間活動概要



２　組織陣容

工学部社会連携推進室は、工学研究科長の指揮下で活動している。

平成２１年度末にベテランの企業経験コーディネーター(以下、ＣＤと略)２名が退職し、以降は実質横森１名（３日/週の非常勤勤務）体制である。

本体制下で所期の目標を達成するために、社会連携研究センター、四日市フロントと連携して活動している。

横森は、企業卒業者であり、その略歴は、以下の通りである。

横森：化学企業の研究開発、工場責任者。

3　活動上の留意点　―情報の共有・連携・見える化―

社会連携推進室所属ＣＤは、企業卒業者であり、長くはない期間の後に、後任との十分な重なり無しに大学を離れることが考えられることから、業務の「ブラックボックス化」を避けるために、以下に示す様に他部署との連携と、業務の「見える化」に留意している。

①　研究科長室会議での活動報告　１回/月

可能な場合は、社会連携研究センター、四日市フロントも同席。

②　月報の作成と関連部署への配信

宛先は、研究科長、社会連携研究センター担当者、四日市フロント責任者他

③　打ち合わせ議事録の作成と関連部署への配信

ＣＤ業務は、他部署との折衝が必須である、折衝・打ち合わせの際に、議事録を作成し、関係者への配信を行い、情報と認識の共有化を図った。

4　活動成果報告

活動は、以下の２点に大別される、以下にその概要を示す。

①　外部資金獲得支援業務

②　工学部の運営に貢献する便利屋業務　例：外部との折衝・連携・調整他

4－1　外部資金獲得支援業務

本活動は、①外部資金の獲得、②公募情報の的確な提供に分かれる。

1）外部資金の獲得(社会連携研究センター梅村特任教授との協働作業)

Ｈ２３年度成果：計　１６９０万円　(H22 年度　740 万円)

内訳：Ｎ社共同研究　200 万円、

Ａ－ＳＴＥＰ　８件　1490 万円(拠点枠１件含む)

外部資金の獲得と言っても、内容は多岐に渡り、対企業、対国・県で取り組みの難易度は異なる。

詳細は省略するが、国・県の公募への対応の方が、企業への対応よりも成果が得やすい傾向が有り、限られた社会連携推進室の陣容で成果を求めるために、国・県の公募対応に注力した。

本年度は、A-STEP の公募が 2 回行われ、結果として広き門となったが、関係者の努力に裏打ちされた成果と理解している。

ＣＤの関与は、科研費に代表される研究のオリジナリティを重視する公募では必要性は低く、A-STEP に代表される研究成果の応用を目的とする公募で求められる。

公募を審査する査読者は、必ずしも申請分野のプロでない事が多く、簡潔で判り易い表現と、産業上の有用性の主張が重要となる。

採択のポイントは、[Ａ：研究内容]＊[Ｂ：理解され易い簡潔な表現]＊[Ｃ：産業上の有用

性]の積の最大化である。

Ａは教員マターであるが、Ｂ、Ｃにはコーディネーターの関与が必須と受け止めている。

以下に、H23 年度の A-STEP・FS ステージ探索タイプの獲得実績を示す。

A-STEP 探索タイプ　実績比較表

	全体	情報通信	装置・デバイス	無機化学	有機化学	アグリバイオ	医療技術	創薬
全国　第二回	832	76	197	85	93	114	161	106
第一回	1181	91	279	138	110	197	232	134
計	2013	167	477	223	203	311	393	240
三重大学	11	2	3	1	1	0	3	0
	15	1	4	1	2	4	2	1
	26	3	7	2	3	4	5	1
工学部	5	1	2	1	1	0	0	
	9	1	3	1	2	1	1	
	14	2	5	2	3	1	1	
岐阜大学	11		1	2	2	3	1	2
	11		3	1	2	1	4	
	22		4	3	4	4	5	2
静岡大学	8	1	1	2	2	2	0	
	8	1	3	2	1	0	1	
	16	2	4	4	3	2	1	
豊橋技科大学	5	0	0	3	0	1	1	
	9	1	2	3	1	1	1	
	14	1	2	6	1	2	2	

東海３県の、同種の国立大学に比して、採択件数において優位に立っていることが見て取れる。三重大学の教員の研究レベルの高さとＣＤ関与の賜物と考える。

三重大学の採択件数２６件中、工学部１４件と過半を占めており、社会連携推進室は、工学部１４件中８件(５７％)に関与している。関与した外部資金獲得額１４９０万円は決して大きな額ではないが、ＣＤの関与なしには獲得できなかったものと自負している。

又、ＣＤの関与は研究資金の獲得支援だけに止まらず、研究実施段階から報告に至る様々な局面においても行われている事を付記する。

２）公募情報の的確な提供　－財団関連公募情報のまとめ－

三重大が関係する外部からの公募情報は、延２０００件/年に達している、これらの中から、財団関連の公募上情報を抜粋し一覧表にまとめ、工学部の教員に配信した。

財団の公募も定例行事化されているので、外部資金獲得に意欲的な教員の方々への一助となったと考えている。

３）教員のアクティビティの把握

的確な外部資金の獲得支援のためには、教員のアクティビティの把握は必須で

ある。期末の修論発表会はそのための良い機会となっている、フル聴取を心掛けている。

４－２　工学部の運営に貢献する“便利屋”業務

教員の方々の主業務は教育と研究であるが、この他に多くの対外的な雑務が発生している。雑務と表現していても、大学運営の視点からは重要な事項も多く、その処理は、企業経験者に委ねた方が円滑かつ的確に行われる事が多い。

以下に、その実施内容を示す。

１）三重県中核人材育成事業　実施支援

三重県下の中小企業の技術者育成支援事業である。工学部は実施主体である高度部材センターの要請に基づき技術教育の講師を派遣している。

社会連携推進室は、この仲介、実施支援を行った。

２）四日市コンビナート安全対策委員会　事務局業務

四日市市消防本部は四日市コンビナートの安全に責任を負っている。工学研究科鈴木泰之教授と加藤征三特命学長補佐は四日市消防本部が主催する四日市コンビナート安全対策員会に学識経験者として参画しコンビナートの安全・安定操業に対して貢献している。特に、本年度は、東日本大震災により被災した化学企業の実態調査のため消防本部と共に現地に赴き、四日市コンビナートの安全指導に反映させている。横森は化学企業の経験者として側面支援を行っている。

３）四日市コンビナート産学官連携会議　事務局業務

「化学工場向け外面腐食対策セミナー」　６/１６実施

三重大学・四日市市消防本部・コンビナート企業が四日市コンビナートの保安技術の向上に向けて連携会活動を行っている。化学企業にとっての重要課題である「外面腐食」に対して、プラントメンテナンス協会は「外面腐食対策ガイドライン」を策定・出版し、コンビナート各地区でセミナーを行ってきていた。

この一環としての四日市地区でのセミナーを企画し、四日市地域防災協議会加盟会社３５社他から約 130 名の参加を得て、成功裏に終えた。尚、プラントメンテナンス協会によれば、四日市地区での参加者 130 名が最大規模であったことを付記する。

東日本大震災直後の時期であり、工学研究科鈴木泰之教授の基調講演「自然災害と産業防災」は、時機を得た講演となった。

4）日本化学会東海支部「化学安全セミナー」１１/１６実施支援

分子素材工学研究科堀内教授が企画したセミナーへの参加者確保と実施支援を行った。講演題目、講師：「工場事故原因調査の過程から得られる事故防止対策」

三重大学非常勤講師（元愛知県警科捜研）三井利幸氏、「東日本大震災に関連する化学工場等の被害状況と今後の災害対策」三重大学　特任教授　太田清久先生

四日市コンビナート産学官連携会議のセミナーと位置づけ、消防本部・四日市地域防災協議会の協力で参加者約50名を確保し盛会のうちに終了させた。

5）中部電力対応

例年、研究テーマ公募対応及び中部電力テクノフェア参加者募集支援に関与しているが、東日本大震災の影響によりテクノフェアは中止され、大きな関与は発生していない。

6）工学部学生のコンビナート見学会の企画・実施支援

機電系の学生はコンビナート企業を就職先として深く認知していないが、大きな活躍の場が準備されている。このミスマッチを埋める試みとして、行政(三重県・四日市市)・企業・大学の連携の下、見学会が企画・実行されている。

本年度は、機械・学部2年の見学会(H24　1/13)実施支援と、電気電子・学部3年の見学会のH24実施準備を行っている。

電気電子学部3年の見学会は、足掛け3年の準備活動が実り、H24　11/22の実施の運びとなっている。

7）機電系学生向けコンビナート化学企業の求人情報の一括取りまとめ

上記活動の発展系として実施した。化学企業にとって機電系の人材は必須であるが、採用頻度は数年に1回程度であり、学生への訴求力は弱い。

四日市地区には一部上場の大手化学企業が多数有ることから、求人情報の一括取りまとめを図り、就職担当の教員へ化学企業群としての求人情報を提供した。

この効果か？化学企業への学生の応募が増加したとの謝意を受けている。

8）泗研懇との連携：三重大学のアクティビティの紹介　１２/１３実施

四日市地区大手化学系企業の研究開発責任者の連携組織として「泗研懇」が存在する。例年、秋の総会の場で、三重大学のアクティビティの紹介プレゼン(工学部・生物資源)を、ＣＤが中心となり行っている。

本年度は、工学部社会連携推進室CDの横森と生物資源学部社会連携推進室・佐藤CDがプレゼン行い、交流会を含め大学・企業の交流の実をあげた。

9）工学部・北勢地区中小企業　産学連携ミーティング　H23　３/９実施

工学研究科・三重 TLO・三重銀総研が主体となり、三重銀行傘下中小企業との連携を推進している。社会連携推進室は、準備・フォロー等の側面支援を実施。

本連携活動に向け工学研究科シーズ集が一新され、その後、各種の場において利用されていることを付記する。

１０）学生の就業力向上支援（ＣＤ業務対象外）―特別講義―

学生生活から企業・実社会へ移行する際に大きな不連続が存在する。

多くの学生は、この不連続を認識しないまま実社会に入ろうとして、様々な不適合を発生させている。

企業出身者の視点で、学生にこの不連続の実態把握と対処法の修得を、グループ討議、プレゼンを盛り込んだオリジナルな特別講義により促している。

5　まとめ

工学部社会連携推進室としての１年間の活動を概括した。

振り返って見ると、試行錯誤の連続であったが、投入経営資源を上回るリターンを工学部に提供できたと自負している。

熟年のCD１名であるが、企業時代に培ったやる気と工夫は錆びついていない様である。

関係部署との連携の下、より優れた成果を生み出し続け、社会連携推進室が、三重大学工学部にとって必要な組織であることを認知させる試みを続けていきたい。